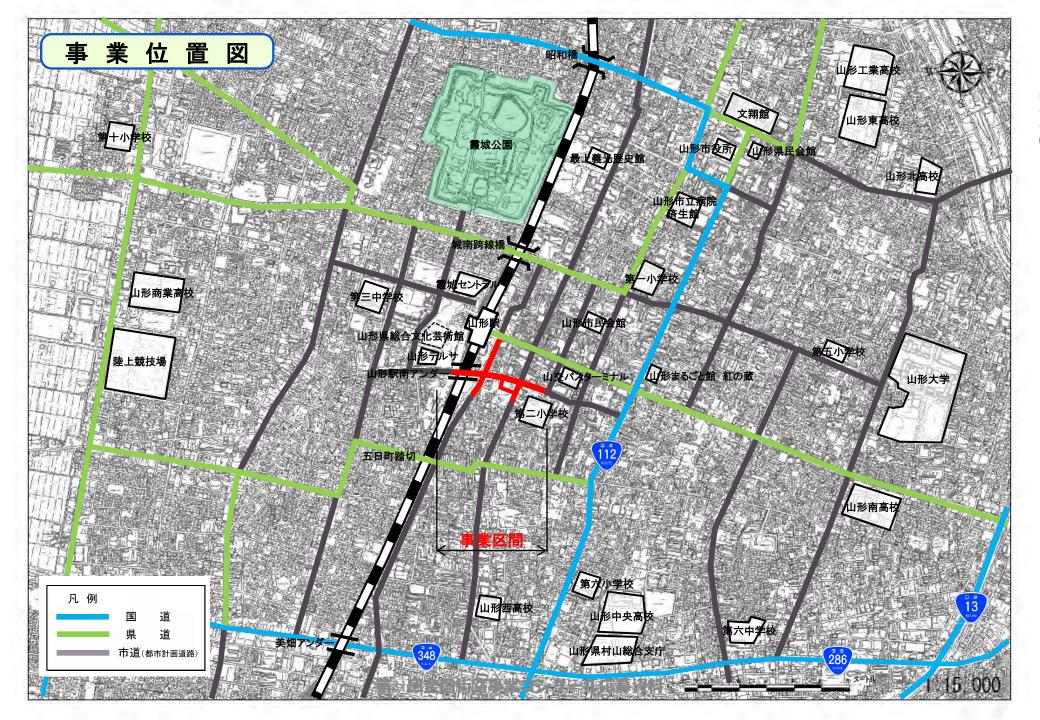
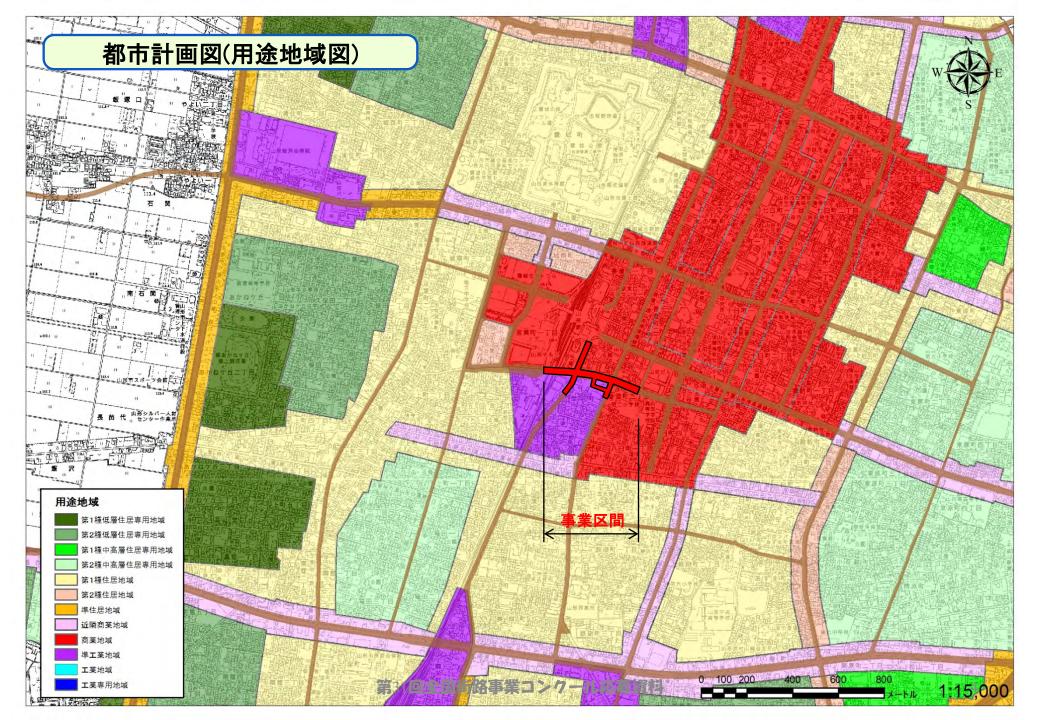
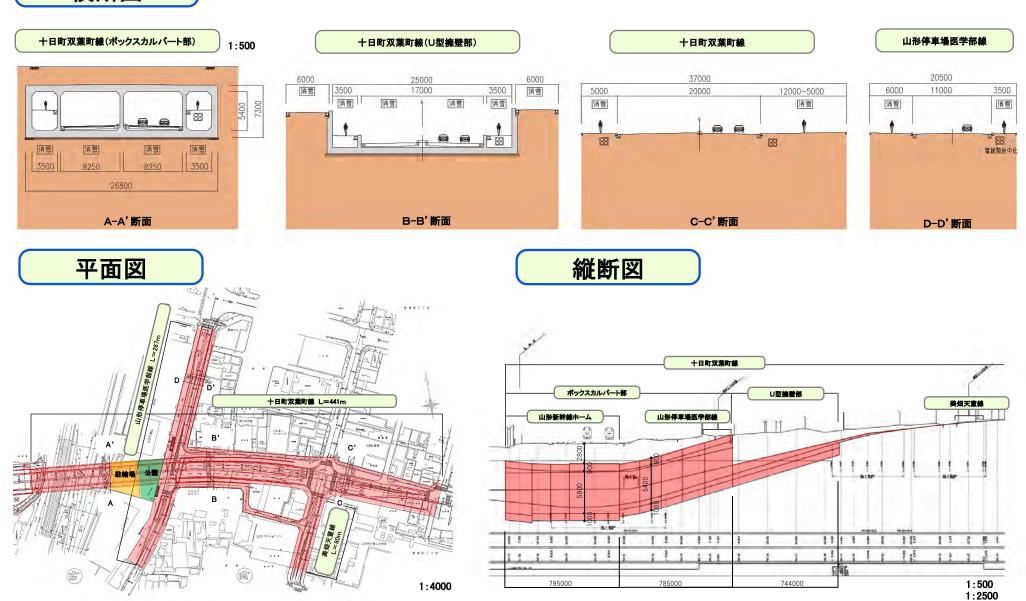
事業概要

ふりがな	やまがたしまちづくりすいしんぶ
応募者名	山形市まちづくり推進部
ふりがな	やまがたこういきとしけいかくどうろじぎょう3・2・7ごうとうかまちふたばちょうせん
事業の名称	山形広域都市計画道路事業3·2·7号十日町双葉町線
ふりがな	やまがたし
事業主体	山形市
ふりがな	やまがたし
実施都市名	山形市
事業概要 (400字以内)	本事業は、山形市都市計画マスタープランに位置づけられた新たな道路ネットワーク(山形駅環状道路)山形広域都市計画道路事業3・2・7号十日町双葉町線を整備することで山形駅の交通結節点機能を強化し、周辺道路の渋滞緩和と円滑な道路交通の確保による都市機能の向上を図るものです。また、新たなJR線の横断箇所(山形駅南アンダー)の開通により、新規バス路線の運行とコミュニティバスの中心市街地への運行が開始され、アクセス向上による東西地区の交流により中心市街地の活性化に寄与しております。さらにボックスカルバートの上部に駐輪場と公園を設置することで良好な都市環境を提供しました。工事については、山形新幹線ホーム直下を通過するため、影響の小さい非開削HEP&JES工法を採用し、鉄道運行に支障を与えることなくアンダーパス工事を施工するとともに、無散水消雪システムを採用して降雪期も安心な道路を実現しました。
事業規模	○事業延長: 441m ○事業費: 164億 ○事業期間: 平成10年~平成29年
事業の目的	山形駅西土地区画整理地区と山形駅東地区をアンダーパスで連結することにより道路ネットワークの構築、駅周辺の利便性向上、公共交通機関へのアクセス強化を行い都市機能の向上を図る。
事業効果 (効果一覧を参考に 具体的な効果を記入)	・新たなネットワークの形成による交通量の増加と周辺道路の交通量・渋滞長の減少 ・新規バス路線の運行とコミュニティバスの中心市街地への運行による東西交流の活性化 ・アンダーパスを通る安全な通学路の確保と無散水消雪による冬期間も安心な歩道 ・ボックスカルバートの上部を利用した駐輪場・公園の設置による違法駐車自転車の減少と都市環境の向上
地元対応等 ・地域住民との協働等 ・合意形成等を図ったか ・地域に配慮した点	・山形新幹線ホームへの影響を最小限にするために非開削のHEP&JES工法(エレメントけん引工法)を採用・ゲリラ豪雨対策として、冠水センサーと冠水時にUターン可能な分離帯を設置し、災害時の安全を確保・地下水の熱を利用した循環型の無散水消雪システムを採用し、環境にやさしく冬でも安心な道路を整備・通学路として指定するため、ボックスカルバートにトップライト(天窓)を設置して内部を明るく、防犯カメラ・非常ボタンの設置することで安全を確保し、使い方について警察と共同で通学児童に勉強会を開催

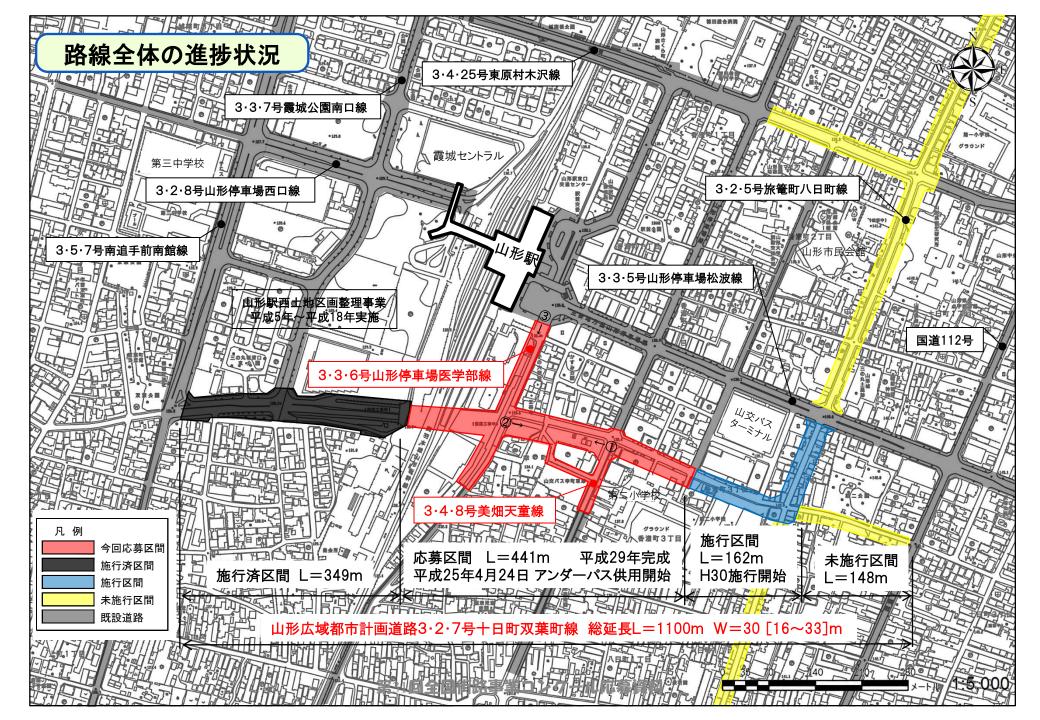




横断図



第31回全国街路事業コンクール応募資料



事業前写真



業 後 写 真



事業前航空写真



十日町双葉町線② 平成11年11月撮影







事業後航空写真



山形停車場医学部線③ 平成11年11月撮影







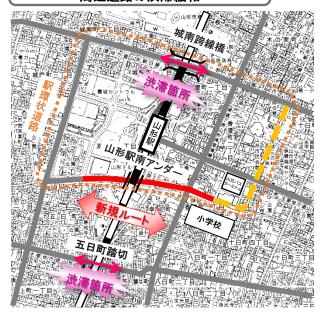
十日町双葉町線の事業効果

新たな道路ネットワーク (駅環状道路) 開通前調査実施日:平成24年11月13日(火) 12時間 霞城公園 開通後調査実施日:平成26年10月21日(火) 12時間 至山形 中央IC 21,946台 市民会館 19,197台 山形駅西地区 至山形 蔵王IC 駅 山交バス ターミナル 9,410台 学校 6.944台 28.890台 増 10% 3,330台 31.937台

新たな道路ネットワークの構築

- ○山形駅周辺の駅環状道路の構築による都市機能の向上
- ○新たなJR線の横断箇所(アンダーパス)の設置による交通量の増加
- ○東西間(跨線橋・踏切)交通の分散化による渋滞緩和
- ○新規バス路線の運行による公共交通機関のアクセス強化
- ○コミュニティバスの中心市街地への運行による東西交流の活性化

周辺道路の渋滞緩和



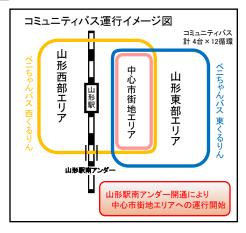




新規ルート開通により交通量52%減

公共交通の機能強化





山形駅南アンダー開通によりコミュニティバス路線を延伸 利便性向上による東西地区の交流により中心市街地の活性化

十日町双葉町線の事業効果



安心・安全な通学路の確保(通学路対策)

- ○児童が安全に通学できる環境
- ○冬期間も安心して歩ける歩道
- ○防犯用非常ボタンによる安全の確保
- ○自然エネルギー(地下水熱)消雪システムによるCO2対策

駐輪場・公園の確保(都市環境対策)

- ○道路上部空間を利活用した都市環境の改善
- ○駐輪場の設置による違法駐車自転車の減少
- ○防犯カメラ設置による犯罪の抑制効果
- ○太陽光(トップライト)を利用した省エネ効果

安心・安全な通学路 (通学路対策)



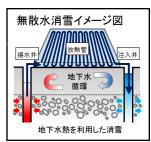


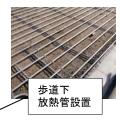


安全な通学路 冬期間も安心 雪の溶ける歩道





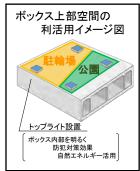






..._

駐輪場・公園の設置(都市環境対策)





道路空間の3D活用 駐輪場の設置により 放置駐車自転車87%減少









受賞歴 報道資料

山形新聞 平成25年4月25日 掲載



読売新聞 平成25年4月25日 掲載



(38)は「車による交通量の 関加は心配だったが、歩道 も広く確保され、安心して 安全面にも配慮した。 常警報装置6台を設置し、 安全面にも配慮した。

近くの市立第二小の2年生 近くの市立第二小の2年生 けつけた住民らが、車道を はたけではた住民らが、車道を はたけではたけではため、東道を

山形新聞 平成25年7月3日 掲載



受賞歴 報道資料

平成19年11月7日 掲載 山形新聞



線路のゆがみ、禁物、職人技、1日3-5元



トンネルの中では、滑車の付 いた板に乗り地面をけって進 む。電灯のない所は暗い





85学四方での作業。線路への影響がないよう 地道な手掘りが続く

山形駅南 アンダーパス道路建設

山形新聞 平成25年3月25日 掲載

東西新道路 来月24日開通



渋滞緩和、経済効果など期待